

ICT利活用に係る四国の取組み

(四経連活動に関連して)

2012年5月23日

四国経済連合会

専務理事 三木 義久

I. ICTを活用した特色ある地域づくりに関する情報発信・啓発

四経連情報化委員会での講演等による会員企業の啓発や四国の魅力ある地域づくりの全国への情報発信。

<参 考>ICTを活用した地域づくり

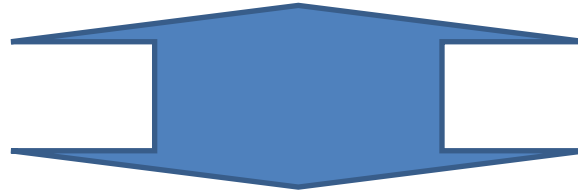
<p>かがわ遠隔医療 ネットワーク (K-MIX 香川県)</p>	<p>～全国初の全県的な公的遠隔医療システム～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県が、遠隔医療に先駆的に取組んできた香川大学医学部などと連携し、2003年に独自に構築したシステム。 ・香川大学医学部附属病院など県内の中核医療機関と、地域の病院等をインターネットで結び、CT画像などの様々な情報をやりとりしている。 (参画医療機関:109<香川県内:98、県外11>) ・離島・山間部などの過疎地医療の改善のほか、高額検査機器の共同利用、患者の通院負担軽減などの効果が生まれている。 ・2011年12月、国の地域活性化総合特区の指定。
<p>葉っぱビジネスで高齢者が 生き生きと暮らす町 (徳島県上勝町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農協の営農指導員が中心となり、紅葉や笹などの葉っぱを料理に添える「ツマモノ」として商品化し、1986年から大都市の料亭などに出荷を開始。 ・1999年に第三セクター「株式会社いろどり」を設立し、各農家への売れ行き情報の提供や情報端末による受注システムの導入により、高齢者がビジネス参加しやすい環境整備を行ない、受注から1時間以内で農協へ出荷できる体制を構築。

Ⅱ. 「四国学」と四国内8大学による『e-Knowledgeコンソーシアム四国』の取組み支援

四経連が推進する「四国学」

四国に住む人々が「四国は一つ」という意識を高めるとともに、特性を生かした活力ある地域づくりに繋げてゆくことを狙いとして、四国の資源や魅力・課題・活性化方策を調査検討し、情報発信を行ってゆく取組み。(平成18年度から。「四国の先覚者たち」発刊、四国の大学からの四国活性化研究論文募集など)

四経連の「四国学」の
取組みにも呼応



四国の地域づくりを
担う人材育成

四国内8大学による『e-Knowledgeコンソーシアム四国』(ek4)

設立

平成20年10月 (徳島大・鳴門教育大・香川大・愛媛大・高知大・四国大・徳島文理大・高知工科大)

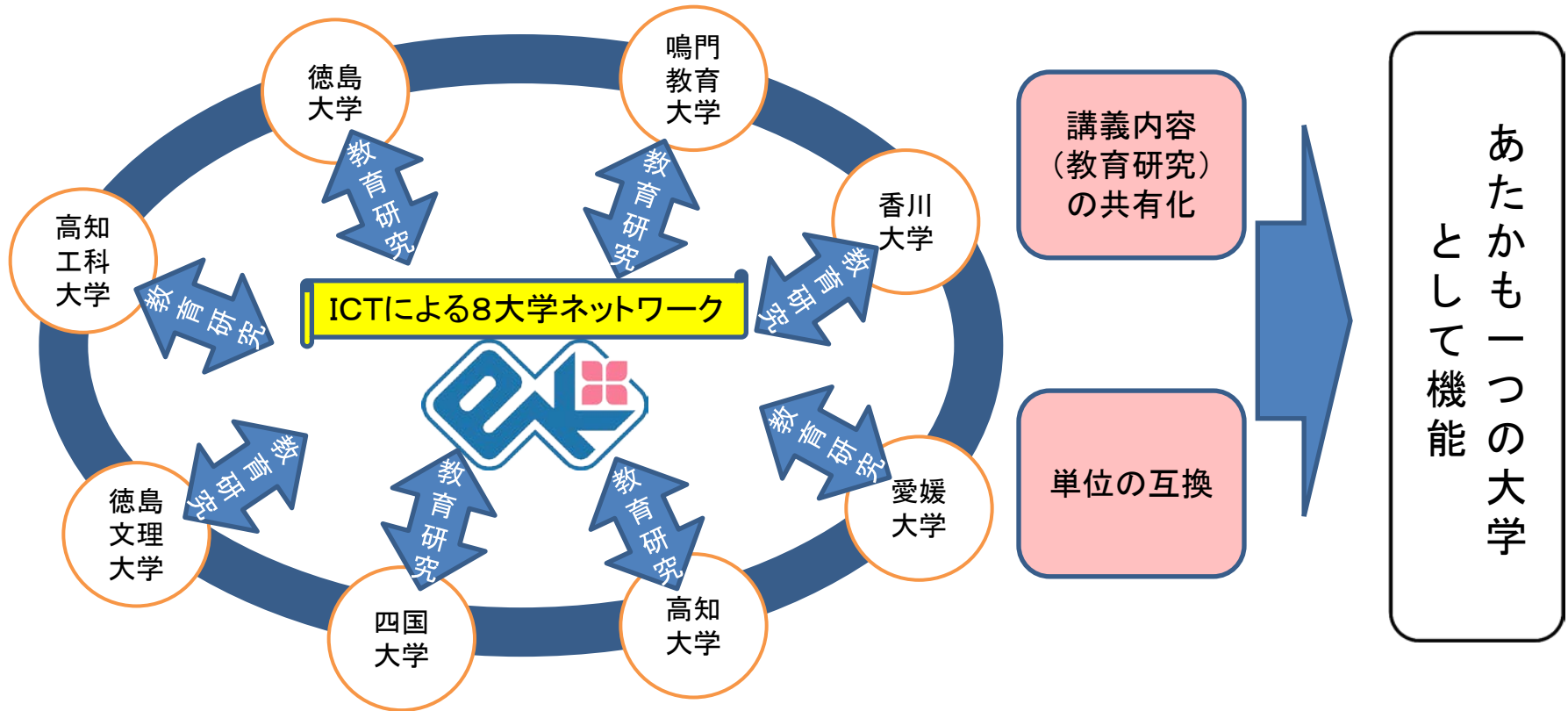
地域づくりを担う人材育成に資する教育プログラム

- ・四国の「広域的課題、資源の魅力、ブランド、歴史、地勢、文化、伝統等」を内容とした地域文化リテラシーである教養教育科目としての「四国学」
- ・地域ニーズに応じた職業人を育成する専門職業リテラシーである「学際的専門教育科目」

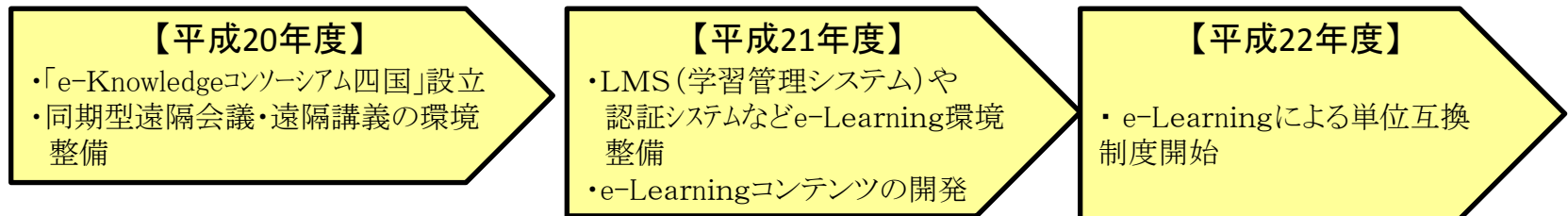
ICTを活用した連携

四国内8大学がコンソーシアムを形成し、情報通信技術(ICT)を活用して、各大学の特徴を生かした教育研究をe-Learningコンテンツとして共有。

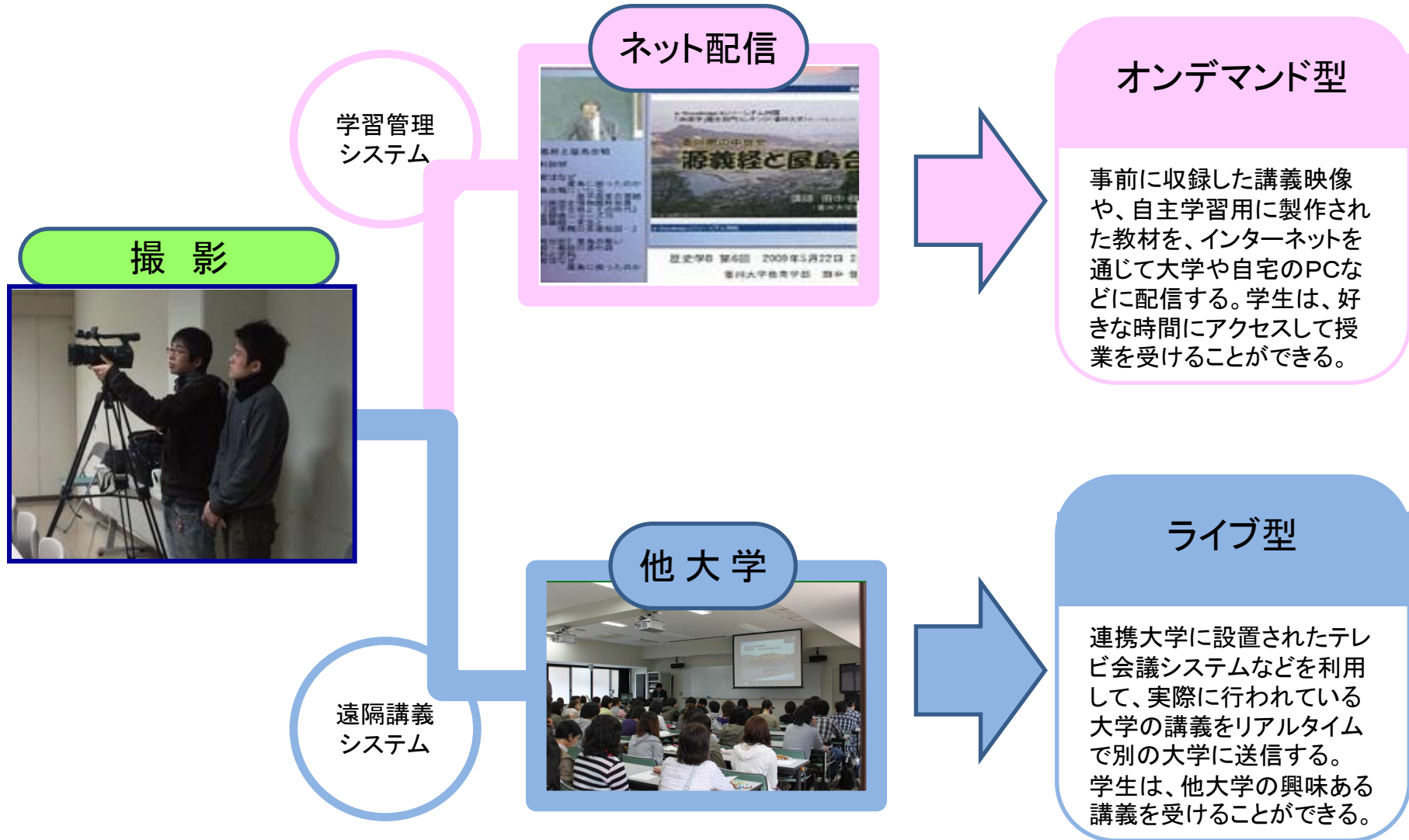
【参考】『e-Knowledgeコンソーシアム四国』の事業概要



《現在までの取組み》



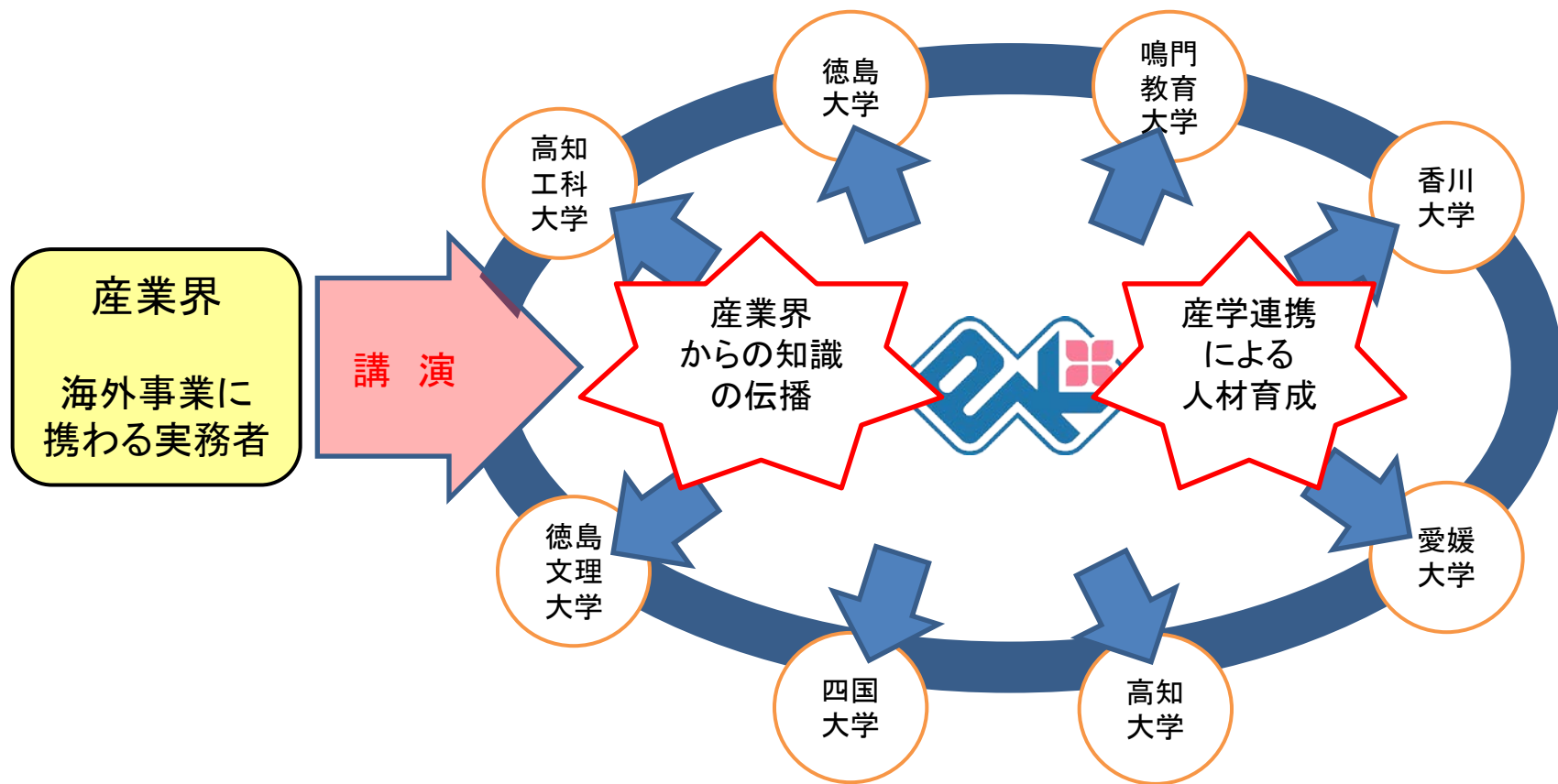
【ek4のe-Learningの構成】



【eK4が提供する授業科目】

	構成内容	履修者数(人)	
		平成22年度	平成23年度
教養教育科目(四国学)	<ul style="list-style-type: none"> ・四国の歴史と文化 ・地場産業から見た四国の社会 ・四国の自然環境と防災 (四国の文学散歩) 	355	320
学際的専門教育科目	<p>【24年度開講予定テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターと教育 ・情報社会論 ・未来可能性を創造するための学び ・流れと波の災害 	292	271

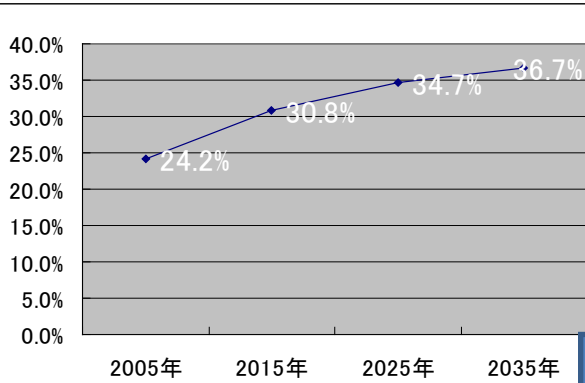
- 四国学コンテンツ(地方政府論)の制作協力
- グローバルチャレンジセミナー(仮称)の開催(平成24年度実施予定)
「グローバルに活躍できる人材」、「自ら主体的に考え行動できる自立型人材」の育成に向けた産学連携した教育。eK4を活用して、企業で海外事業に携わっている実務者(会員企業)を講師に、海外文化に触れることの重要性や海外事業にチャレンジすることの面白さ等を大学生に伝える。



<ICTを活用した地域へのオープンコンテンツ化>

四国は、全国に先行して高齢化が進行。生涯教育へのニーズが高まっている。こうしたニーズに的確に対応し、高齢者が生き生きと暮らしてゆくための環境整備に向けて、大学の域を超えて地域へ大学の「知」を開放してゆくことが必要になる。このため、e-Knowledgeコンソーシアム四国は、同スキームを広く社会に開放してゆくことを目指している。

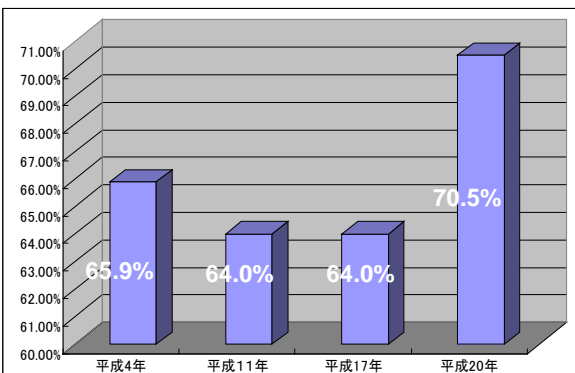
【四国の高齢化の進展】



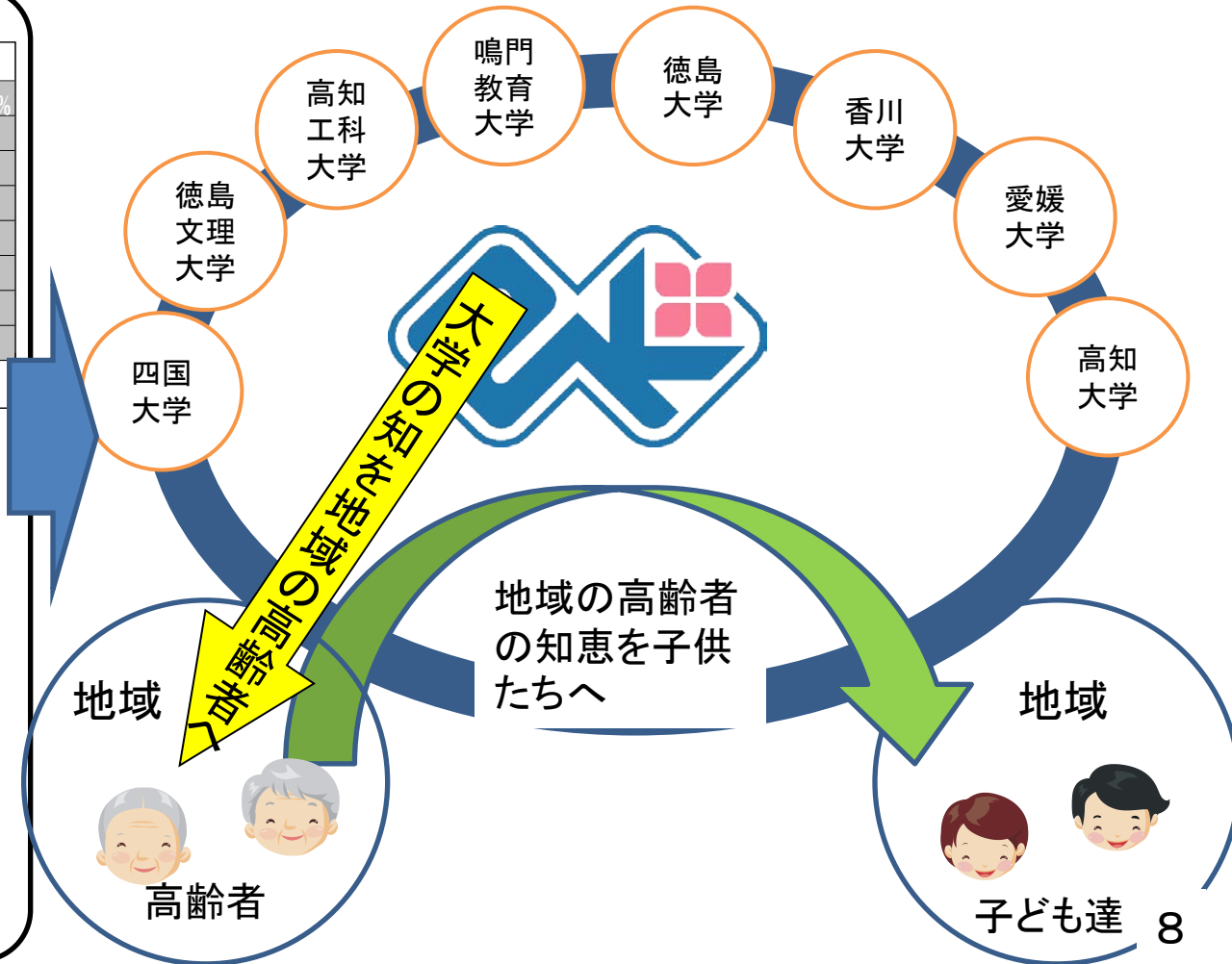
出典：国立社会保障・人口問題研究所

【生涯学習へのニーズ(全国)】

「生涯学習をしてみたいと思う」と回答した比率



出展：生涯学習に関する世論調査(H20年調査)



○事業運営費用の不足

- ・「e-Knowledgeコンソーシアム四国」の立上げは、文部科学省の助成事業によって行ったが、平成22年度で同事業が終了。
- ・現在、各大学でコンテンツの作成しているが、予算面で十分でなく、今後のコンテンツ充実、利用領域の拡大などを図ることが難しい状況にある。



事業運営費用に対する国の支援

○著作権などに対する規制

- ・e-Learningを実施する場合は、著作権や公衆放送権などの問題をクリアする必要があり、円滑なe-Learning事業実施の阻害要因となっている。



e-Learningにおける著作権などの規制緩和
〔著作物の教育利用における複製の例外取扱いのように〕

Ⅲ．四国歴史文化道の情報発信

歴史文化道を効果的にPRするために、近年急速に普及しているスマートフォンを活用した情報発信を予定。

【現在の情報発信】



ホームページによる情報発信



パンフレットによる情報発信

これらに加えて

スマートフォンによる情報発信（平成24年 秋頃予定）

GPSの位置情報機能を利用し、全ての歴史文化遺産へのアクセス経路などを地図上に表示するナビゲーション機能を開発し、「歴史文化道」を実際に巡っていただける仕組みを作る。

その他、エンタメ系コンテンツも予定。

- ・歴史文化遺産を訪れた方の足跡記録としての写真アルバム
- ・訪問数ランキング
- ・歴史文化遺産に関する知識検定 など



【四国「歴史文化道」】

～11の歴史テーマで巡る四国の旅～

四国歴史文化道は、より多くの人々に、四国の歴史・文化に触れ親しんでいただくために、平成9年から官民が一体となってルート整備や標識設置、PR活動、語り部との連携等に取り組んでいる。

四国各地にそれぞれ、歴史的テーマをもつ11のモデル地域を設けている。

